

14. 市民生活とごみ

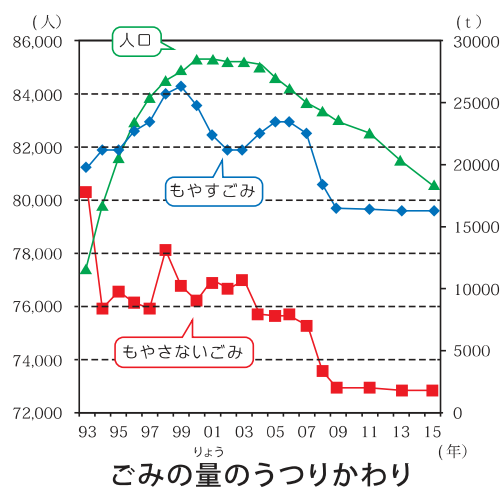


伊賀南部クリーンセンター

ごみステーションには、毎週決まった曜日になると、指定ごみぶくろに入れられたごみが山のように出されます。これらのごみはしゅう集車によって伊賀南部クリーンセンターへ運ばれていきます。

ごみのしゅう集は1970（昭和45）年ごろから始まりました。それまでは、ごみもそれほど多くなかったので、自分の家でもやしたり、うめたりしていました。しかし、人口がふえるにつれてごみの量や種類がふえ、家だけではしよ理できないようになってきました。そこで、名張市では青蓮寺に第1清そう工場をつくり、町の中のごみを集めるようになりました。さらに、人口がふえるのごみの量がますますふえたので、比奈知にも第2清そう工場をつくり、名張市全地区のごみを集めるようになりました。そして、2008（平成20）年、伊賀市に伊賀南部クリーンセンターをつくり全てのごみをしよ理しています。名張市のごみの量は右のグラフのように変わってきています。

グラフを見て、気づいたことを話し合みましょう。



ごみをへらすためにどんな工夫をしていますか。学校や家庭でできることを考えてみましょう。



なばりのストッピー (ごみゼロキャラクター)

名張市では、ごみゼロ社会をめざすことを目標に、ごみの量をへらす計画をつくり、実行しています。

2008（平成20）年から開始された指定ごみ袋の有料化、よう器包そうプラスチックのしげん回しゅうにより、もやすごみも、もやさないごみもかなりへりました。

2017（平成29）年からの計画では、「食品ロス」をへらす取り組みを進めています。好ききらいをせず、給食を食べ切ることも食品ロスをへらす取り組みのひとつです。



さらに、ごみの中にはリサイクルできるものがたくさんふくまれているので、工夫する必要があります。名張市では、「3R（スリーアール）」や「22品目の分別」の取り組みを進めています。

名張市のごみの分別（22品目）

新聞紙	雑誌・ざつ紙	金属類	アルミ缶
段ボール	紙パック	びん類 (無色透明)	スチール缶
繊維類	ペットボトル	びん類 (茶色)	スプレー缶
白色食品トレイ	容器包装プラスチック	びん類 (その他の色)	蛍光管・電球
チューブ類	お菓子・パンのポリ袋	粗大ごみ	体温計・温度計
靴・かばん類、ぬいぐるみ	紙おむつ	もやさないごみ	乾電池
生ごみ (よく水を切る)	枝、木切れ、草、生け花	板ガラス、コップ、割れたびんやプラスチック	インスタント食品のアルミ製なべ、アルミホイル
		おもちゃ (プラスチック製)	CD、DVD

※ライターは危険物として資源収集日に回収